



2016~2017

# 沼田ロータリークラブ会報

人類に奉仕するロータリー  
ROTARY SERVING HUMANITY

2016~2017年度 国際ロータリー会長 ジョン・ジャーム

例会日…毎週火曜日 12:30 会長 小菅茂雄 幹事 西田俊太郎 会報編集 綿貫利彦  
例会場 ディラン 事務所 沼田市西倉内町669-1 沼田商工会議所3階 TEL 0278-24-1177

第2904回 例会報告

2016年10月4日

記録 金子秀行

例会 予告

10/11	新会員卓話
10/18	たくみの里 河合進先生

<http://www.rid2840.jp/numata/>

2016年10月11日発行 No.14

一般公開例会 於 利根沼田文化会館 小ホール

## 最後まで目一杯生きる

— 穏やかな死に医療はいらない —

萬田 緑平 先生

■司 会 木下康彦委員

■会長挨拶 小菅茂雄会長

ロータリーは人道的奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的基準を守ることを奨励しています。特に「疾病予防と治療」にも優先事項として、積極的に支援しています。萬田緑平先生の講演で一人でも多くの方が、何かを感じていただければ幸いです。

■講師紹介 割田一敏副委員長

昭和39年日野市生まれ、平成3年群大医学部卒業、平成20年3月まで群大第一外科に所属して県内外の病院外科に勤務。同年4月より現在の緩和ケア診療所「いっぼ」に勤務。緩和ケアを本格的に取り組み、自宅で目一杯生きるためにガン患者を中心に在宅でケアを行っています。

その取り組み方、遺族の声を聞いていただいて、生きることと死をどう迎えるか、そこから何ができるのか少しでもつかめたらと思います。

■講 演

私の話は通常の病院医療とは少し違う話になります。

高崎で「緩和ケア診療所いっぼ」として、ガン患者を中心に在宅緩和ケアを専門に行っています。院長以下、医師2人、看護師8人、事務4人で運営し、月20人年約200人を在宅ケアして患者が亡くなっていきます。単に見とるのではなく、生きぬく手伝いをするので、動けなくなり、食べられず寝てばかりとなり、自然と呼吸が止まるというシンプルな末期を迎えることです。



自分も家族もだんだんと弱り静かに死を迎えるのを不安に思い、医療や薬に望みをつなぐ、それが苦しみを与え、痛みが増し体力が消耗していくのです。好きなようにするのが一番で、頑張りたいたら頑張り、自由にそのまま生きていたいなら私達はそれを手伝う。しかし、家族の思いもあり医師に任せてしまい、自分のシナリオを決定できない。最終章は自分で書かないと失敗してしまい、自分で書いたものは、拍手を受けて笑いと感謝で終わられます。

最終は家に帰りたい、どうせ死ぬなら家で家族に見とられ迎えたい。しかし、もう話す力もなく、水も飲めず点滴のままになってしまう。

ある方は退院後7日で亡くなったが、家に帰り風呂に入りたいと望み、家族が受け入れて私共に依頼された。お風呂も入り歌まで歌い、感謝で家族も見とられた。ガン治療も末期は苦しみ死を迎えるのがほとんどで、最後を好きなようにすることで、少ない時間を本人らしく過ごして迎えられます。しかし家族は最後まで少しでも楽に、可能性があればあきらめられないのがほとんどです。

しかし、医師が人体の全てを知ってコントロールできるわけではありません。医師ができるのはほんの一部でしかです。少ししか分からないなら、体に良いことはなんでしょう。

私は好きなようにしてほしいと思います。本人が本当に望むことを行い、本人がいやだと思ふことは、拷問を受けるようなことです。最後まで死にたくない、でも痛い苦しい治療はしたくない、両方思うでしょう。頑張る方には応援する普通治療。もういいからと思う方には私達が応援する。死ぬ寸前まで元気に普通にしている。よく昨日まで元気だったのと言われます。家族はあきらめられない思ひです。それなら最後まで治療すればと思うものですが、幸せに苦しまず行かせたいという気持ちで満たされれば互いに良い事です。

この家族は、死ぬ前に感謝を伝えられ、それに応えてもらい、感謝の涙で息を引き取ったそうです。

中年独身女性の乳ガンの方は、仕事とバイクが好きで、長期治療で仕事もできなくなりバイクも乗れないのは耐えられない、自分らしく生きていたいと私のところに来ました。まだ若いので普通の治療を進めたが、一人きりなのであり、バイク仲間の死を見ていたのでケアを望み、ホスピスに入所して最後は仲間と楽しく過ごし安心したのか眠るように死んでいきました。

たぶん相当痛みがあったと思いますが、それを乗り越え、自分の死後の事も全て整理してまとめてあり、最後は献体をして帰って来た後まで書いてありました。シナリオ通り自分らしく生きられたと思います。

現在医療機関は生命を左右することがあり生命を断たないようにする治療をしないと訴訟問題にもなりかねません。

高齢化社会では、老化を止めることはできません。老化のスピードを弱めることを考えて、検査をして治療方法を選びます。一日一日老化している事を人は気づきませんが、ある日突然何かをきっかけに表に出てきます。家族は最後まで頑張ることを望み、患者もぎりぎりまで頑張る。90%以上の方はそうですが、家族の応援方法も考える時代になってきたように思われます。

ケアは本人の望む事を叶えるようにするため、まず話を聞くことが大事で、よく話し合います。家族からも同じように聞き話し合います。時間をかけ人生の先輩として接する、そうでないと本当の気持ちが出てきません。治療中も聞き通し、患者の気持ちを受け入れ

ることです。例え認知症であっても。

認知症は短期的記憶がなくなっていくまです。家族にも知られたくない、自分は大丈夫と思いたい。新しいことはいやがるので、病院や施設ではパニックになりいろいろな行動をします。自分が自分でなくなるのが恐いのです。家の安心した環境で生活すれば、急変は少なく、いつもの自分になれると家族への感謝が表れ、家族も感謝が伝えられます。

別れは急だが予定通りに来る。誰でも明日があるとは限らない。親孝行をしていないから延命してなんとかと思うが、いつも大切な人に感謝を伝えておく、伝えられるようにしたら、体の状態は良くはならなくても、心の状態は上がり、本人の願いを聞き叶えることができれば、幸せに迎えられます。

人生の主演は本人、助演は家族、シナリオも本人が書く。私は舞台係りでそれらを支えるだけです。

外科医は手術をするだけ、死は敗北でした。今はお陰様と感謝される、生きぬき屋です。無理に治すのではなく、家にいたければ手伝うという本人のシナリオを手伝う仕事で楽しく向かい合っています。

## 例 会 報 告

### ◎ニコニコ委員会 小暮正人委員長

- ・小菅茂雄君 いっぼの萬田緑平先生をお迎えして、心より感謝とお礼を申し上げます。
- ・ニコニコ一週間 公開例会に多くの方を迎えられ、先生の講演を楽しみに。

桑原 滋君	桑原 裕君	天野純一君
金子秀行君	松野正一君	石澤雄一郎君
小暮正人君	諸田一豊君	西田俊太郎君
宮内明彦君	深津卓也君	水石清治君
今井幸吉君	金井正樹君	阿形登氏君
割田一敏君	金井俊介君	武田 寛君
荒井静雄君	戸部聖之君	宮澤孝幸君

### ◎財団BOX IN 松野正一委員長

持谷明宏君	松野正一君	春日政志君
小菅茂雄君	赤間昌彦君	桑原 滋君
桑原 裕君	天野純一君	金子秀行君
宮澤孝幸君	小暮正人君	石澤雄一郎君
宮内明彦君	水石清治君	西田俊太郎君
津久井功君	金井正樹君	金井俊介君
割田一敏君	戸部聖之君	武田 寛君
保坂充勇君		